

令和7年度 看護職員認知症対応力向上研修（前期）のご案内

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素から看護教育事業の推進につきまして、格別なご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、山口県の委託を受け標記研修会を別添「令和7年度 看護職員認知症対応力向上研修 実施要領」に基づき開催いたします。

つきましては、別添資料をご確認の上、お申込いただきますようお願いいたします。

この研修修了者は、健康福祉センター、市町や市町が設置する地域包括支援センターに修了者として名簿が提示されますこと申し添えます。また、この研修は認知症ケア加算2施設基準の対象にもなります。

【別紙資料】

1. 令和7年度 看護職員認知症対応力向上研修（前期）募集要項 1枚
2. 令和7年度 看護職員認知症対応力向上研修 カリキュラム 1枚
3. **別紙** 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための協力依頼 1枚

参考資料 看護職員認知症対応力向上研修 実施状況 1枚

山口県看護協会 教育課教育研修係 河内山
TEL : 0835-24-5853
FAX : 0835-24-1230
e-mail : k-kensyu@y-kango.or.jp

令和7年度 看護職員認知症対応力向上研修（前期） 募集要項

1 目 的

認知症と接する機会が多い看護職員が、入院から退院までのプロセスに沿った必要な基礎知識や、認知症の特徴等に対する実践的な対応力を習得するとともに、同じ医療機関等の看護職員に対し伝達をすることで、医療機関内等での認知症ケアの適切な実施とマネジメント体制の構築を図ることにより、身体合併症等の適切な対応の充実に資する。

2 主 催 山口県

3 実施機関 公益社団法人山口県看護協会

4 開催日時 令和7年 7月12日（土）

7月18日（金） } いずれも 9:30～16:30（受付8:45～）
7月25日（金） } (9:20 からオリエンテーション実施)

（※令和7年度は同じ内容を2回実施予定。2回目は11月実施予定）

5 開催場所 山口県看護研修会館（山口県防府市大字上右田 2686）

6 受講対象者 山口県内の病院で勤務する指導的役割の看護職員（実務経験5年以上の者）

7 募集定員 50名（受講者多数の場合は人数調整させて頂く旨ご了承下さい）

8 研修内容 別添 カリキュラム内容 参照

（一般病院を中心とした認知症の入院患者への対応力向上を目的とするもの）

9 受講料 無料

10 申込期間 令和7年5月1日（木）～5月20日（火）23:59（必着）

11 申込方法 次の(1)と(2)の両方でお申込下さい。（1, 2が揃うことで施設推薦となります）

（1）マナブルから施設単位でお申込下さい（複数の場合は優先順位をつけて下さい）

（2）所定の申込用紙※に必要事項を記入し、メールまたは郵送で提出

※申込用紙はマナブルから受講者各自でダウンロードできます。

12 受講決定 マナブル上とメールで通知します。（6月初め予定）

※注意）時にメール送受信に不具合が生じる場合あり。必ずマナブルでご確認下さい。

受講可能な場合は「承認」と表示されます。

13 修了証書 原則として、全科目・全時間出席をもって修了と認め、その者には県知事名の修了証を交付します。

14 修了者名簿の地域への提示について

地域の認知症医療体制の推進に資するため、健康福祉センター、市町や市町が設置する地域包括支援センターへ修了者名簿を提示することとなります。

15 問い合わせ先 山口県看護協会 教育課教育研修係（担当：河内山）

電話：0835-24-5853 メール：k-kensyu@y-kango.or.jp

令和7年4月1日

来館者各位

山口県看護研修会館内における新型コロナウイルス感染症の
拡大防止対策の変更について

山口県看護協会では、山口県看護研修会館への来館者に対してこれまで新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、「来館前の健康チェックや不織布マスクの着用」について、必ず実施いただくようご協力を求めてまいりました。

このたび感染状況等を鑑み、今後の対応としましては、「来館前の健康チェックや不織布マスクの着用」を義務とはせず、医療従事者としての個人の判断に任せることとします。ただし、山口県感染症情報システムの感染症流行状況において、インフルエンザ及びCOVID-19の県全体定点あたりの報告数が、基準値以上の場合はマスク着用をお願いします。

健康状態に不安のある方は、来館をお控えいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、今後、新型コロナウイルス感染症を含め各感染症のまん延状況によっては、変更があり得ることを申し添えます。

よろしくお願いいたします。

令和7年度 看護職員認知症対応力向上研修 カリキュラム

研修時間: 3日間 (9:30~16:30)

日程	研修内容	
I 認知症に関する知識編 講義(180分) 180分	ねらい	認知症の人の入院から退院までのプロセスに沿って認知症の原因疾患の病態・特徴等の基本知識を習得する。
	到達目標	① 病院における認知症の人の現状や課題を理解し修了後の役割を理解する。 ② 実践対応力の前提となる認知症の原因疾患の主な症状や特徴を理解する。 ③ 認知症の人を支える施策・制度及び社会資源等を理解する。
	主な内容	① 研修目的と意義 ② 認知症の病態論 ③ 施策・社会資源等 認知症を取り巻く施策、認知症基本法等)

II 認知症看護の 実践対応力編 講義(330分) 演習(120分) 計 450分	ねらい	認知症の人を理解し、より実践的な対応力（アセスメント、看護技術、チーム対応、院内外連携等）を習得する。
	到達目標①	① 認知症及び認知症の人とその対応の原則について理解する。 ② 認知症の症状・特徴を踏まえた基本的な対応（アセスメント、看護技術、環境調整等）を行うことができる。 ③ 病棟等における実践的な対応（チーム対応、院内外の連携、家族、介護者支援等）を行う事ができる。
	主な内容	2-1 認知症の人の理解 ・認知症の人の行動などの理解 ・認知症の人に対する看護の基本原則（パーソンセンタードケア） ・認知症の人とのコミュニケーションの基本 他 2-2 実践対応力 I ・アセスメントのポイント ・認知機能障害への対応 ・認知症に伴う行動、心理照応（BPSD）の要因・症状と対応 ・事例検討 他 2-3 実践対応力 II ・病棟などにおけるチームケアの意義 ・多職種連携 ・倫理的課題と意思決定支援・権利擁護 ・社会資源と地域連携 ・事例検討 他

III 体制構築・ 人材育成編 講義(90分) 演習(300分) 計 390分	ねらい	病棟等における認知症ケア体制（院内・地域）の構築及びスタッフ育成・教育等の知識と技法を習得する。
	到達目標	① 病院・病棟の課題を把握し、体制等の実情に応じて、病院・病棟や地域単位で認知症ケアに取り組む体制の構築をすることができる。 ② 自施設において看護職員見向けの研修を企画・実施し継続学習を含むスタッフ育成計画を立てることができる。
	主な内容	3-1 認知症ケア体制構築 ・病院・病棟で取り組む重要性 ・体制構築に向けた取り組み ・演習 他 3-2 スタッフ育成・教育 ・スタッフ育成の目標設定 ・研修の企画立案・研修実施のポイント ・演習 他

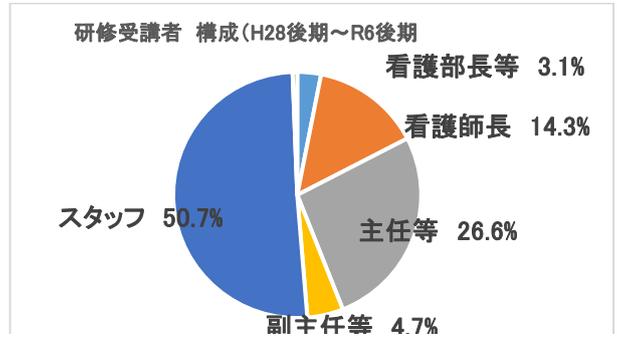
看護職員認知症対応力研修は、厚生労働省の「認知症地域医療支援事業」の一つで、平成 28 年から令和 6 年度後期まで毎年開催しています。目的は、基礎知識や実践力の習得と、自施設の看護職等に伝達し、医療機関内の認知症ケアの適切な実施、マネジメント体制の構築です。令和5年度にカリキュラムの改訂がされ、更に内容が充実しています。令和 6 年度研修の終了アンケートと R5 年度後期までの 6 か月後)の結果をまとめたものです。ご参照下さい。

看護職員認知症対応力向上研修 実施報告

【受講者内訳】 (%) n=742 名 (15 回分)

【研修実施状況】(計 15 回実施分)

研修実施期間 : H28 年 12 月～R6 年後期
 受講者総数 : 95 施設 811 名
 修了者総数 : 779 人/811 人

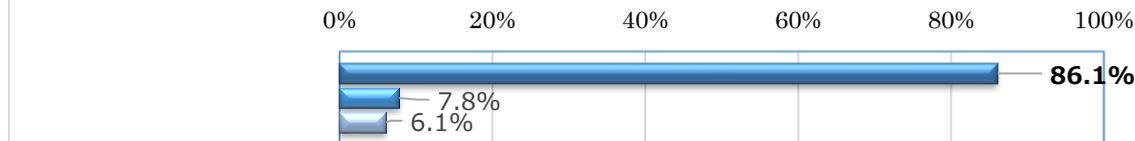


終了時アンケート結果まとめ (H28 ～R6 後期)
 n=742 名/779 名 (回答率 95.3%)

終了時アンケート結果まとめ (H28.12～R6後期) n=742 名/779 名 (回答率 95.3%)



自施設での研修の企画、実施 (H28～R6 後期 n=742 名)



【受講者の声】

- ・認知症の基本知識、対応、対処方法、マネジメントについても学ぶことができ、指導、研修開催に向けての自身の役割や動きを知ることができたので良かった。・実際活用できる内容でとてもおもしろかった。
- ・研修企画案をGWで作成し、他の方の意見を具体的に聞き、イメージが付きやすく、具体的に研修企画ができた。自施設の教育体制の構築にも参考になると思った。
- ・自施設の課題と対応がはっきりしたため、実践につなげていきたい。・認知症の理解をもっと深めていきたい。
- ・今までGWは嫌いだったが、今回はとても楽しく意見交換ができ有意義で楽しかった。
- ・時間やデータを重視しているようで患者に寄り添う看護について悩んでいた。研修参加で自分にできる看護が見えてきた。3日間充実し自分の看護を振り返る時間になった。学びと思いをスタッフとも共有したい。
- ・まず抑制しないためにどうすればよいかスタッフ同士で検討していけるよう頑張りたい。
- ・自分自身がまず意識を変え、日々の看護に役立てたい。・周囲の人から「声のかけ方が変わったね」と言われた。
- ・研修に参加したことで自施設の認知症ケアマニュアルやその活動内容を知る機会になった。急性期であまり関係ないと思っていたが大きな役割やできることがあることを知り、実践場で大いに活用していきたい。
- ・マネジメントの構築については、管理者の立場ではないので難しいと思った。
- ・他スタッフの協力が不可欠と看護師に相談支援を受けながらであれば 研修企画・実施も行っていけると思う。

【研修アンケート結果（その2）終了後6か月後アンケート】終了6か月後

【研修目的に沿い、6か月後アンケートを実施】

対象者数：686名 95施設
(H28年度～R5年度後期研修受講修了者)
回答者数：490名 (72.4%)

- ・研修6か月後、アンケート提出者の約7割近くの方が、自施設で研修や勉強会等を実施／予定されています。
- ・カンファレンス等を活用し短時間で回数を増やし、全員が受講できるように実施方法を工夫されたり、学びの共有や体験型演習（高齢者や抑制体験）で対象の立場を理解する等、研修内容も工夫されています。研修以外でも、日々の実践で生かしているという声も多数届いています。
- ・各施設での研修の実施やOJT、日々の実践での活用により、認知症を持つ人の理解を深め、ケアの充実、質の高い看護の提供につなげて下さっています。また、身体抑制の低減に向けて取り組まれている施設も増え、様々な取り組みをシェアできる場づくりを検討中です。

【自施設で企画・実施した内容の対象者】

- ・看護師（施設内全員、病棟）・介護職・補助者
- ・コメディカル（医師、PT、OT、ST、薬剤師）
- ・病院併設老健、居宅の医療看護職・事務職員
- ・看護学生・地域住民・法人各施設

【研修時間】

・10分～60分等、目的に合わせて設定。
※カンファレンスや昼食時等の利用や回数を増やすなど、短時間で実施する工夫もされている。

【研修内容】

・認知症と対応について・BPSDについて・認知症ケア／援助について・せん妄予防・対象理解

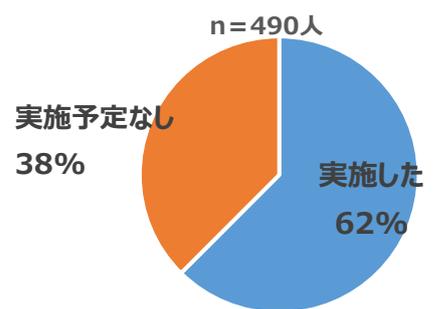
【研修方法】

・パワーポイントを使って講義形式で・病棟スタッフに講義とディスカッション・事例検討

【体制構築】

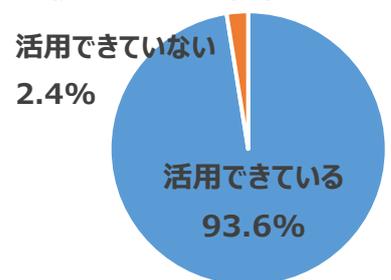
・身体抑制低減に向けてのチーム、プロジェクト立ち上げ等、取り組まれている施設が増えています。

研修修了者6か月後実施状況 (%)



修了者6か月後実施状況

研修内容活用度 (%) N=124人



【受講者の声】

- ・認知症対応力向上研修を受講でき、認知症について学習でき知識を得ると共に当院での課題を考える機会となった。
- ・患者一人一人を見つめ寄り添う時間を取っていきたいと考えることができたことは大きな収穫だった。
- ・認知症にあまり興味がなかったが、様々な場面で「もしかして」ということが発見でき、アセスメントにもつながってきたように思う
- ・多忙で研修までには至らないが、病棟での事例検討やできるだけその人らしく拘束しない等の関わりができ、患者、家族とも良い関係が保たれている。
- ・研修参加後に院内報告として動画作成を行い、講義を実施した。研修内容を振り返ると共に現状を反省したりと、とても良い機会になった。
- ・元々認知症患者と関わることに興味はあったが、「難しい」「大変」というイメージから「楽しい」「もっと患者の事を知りたい」という気持ちに変わった。研修での学びが更に院内に貢献していけるよう頑張りたい。
- ・認定看護師や特定行為修了者に薬の相談をしたりと、患者が安心して療養生活を送れるようみんなで考える場が増えた。
- ・新人研修の中で臨床看護技術以外に認知症に対する研修も入れ、取り組んでみたい。
- ・身体抑制の解除に向けた取り組みが、カンファレンスを通して積極的に実施できるようになった。研修の内容を自分の病棟のスタッフに伝えていくことで自分自身や他のスタッフにも良い影響となっている。
- ・抑制をしないためにはと考える対応できるようになった。効果的な薬剤の使い方等を検討、見直しをすることができた。
- ・マップを作ってみた。ミトン以外にも方法があることを話し合った。
- ・認知症を持つ患者に対して看護援助の必要性や全体で取り組む意識を高める意識改革から行っている。
- ・認知症については奥深く、対応の仕方等幅広いため、勉強会の実施には苦労した。
- ・個人での研修の実施は準備実施時間の確保が難しい。委員会で認知症の研修やeラーニングの視聴を行っている。
- ・カンファレンスが現状報告だけになりがち。少しでもスタッフ全員で統一したケアができるよう、患者のことを考えたケアができるような導きをすることが大切と思うが、難しいとも思う。
- ・体制づくりに関われる立場ではないので自部署内での活動に限られるが、病院全体で取り組めるようになるとよいと考えている。
- ・研修準備や講義にはかなりの時間や労力を費やす。何らかの形で評価されるとモチベーションアップにもつながる。
- ・業務に追われなかなか研修の実施が出来ていない。一人では難しいがサポートしてもらえる体制があると実施しやすい。

受講者にとって認知症ケアへの活動に向けた場の設定、相談の場やアドバイス、職員の協力などのサポートは、研修での学びを実践でいかせる大きな要素になっています。今後ともご支援をお願い致します。

